

※作成にあたりご不明な点等ございましたら、  
本紙提出先の担当者までご連絡願います。

## 履歴書（記入例）

ふりがな 氏名	おおいた たろう 大分 太郎		現住所	〒870-1192 大分市大字旦野原700番地		(写真) ※大分大学教員の場合は 写真不要
生年月日	平成〇年〇月〇日 (〇〇歳) ※年齢は任用予定年月日		連絡先 電話番号 E-mail	090-1234-5678 taro@oita-u.ac.jp		
学 歴						
在 学 期 間			学校等名称 (学校, 学部・研究科, 学科, 専攻等)			卒業・修了等
平成〇年	〇月	～	平成〇年	〇月	〇〇県立〇〇高等学校	卒業
平成〇年	〇月	～	平成〇年	〇月	〇〇大学〇〇部〇〇学科	卒業
平成〇年	〇月	～	平成〇年	〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科博士前期課程	修了
平成〇年	〇月	～	平成〇年	〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科博士後期課程	単位取得退学
学 位・免 許・資 格						
時 期		名 称 等				
平成〇年	〇月	学士 (〇〇) 又は〇〇学士 (〇〇大学) ※学士以上を記載。平成3年3月までは〇〇学士, それ以降は学士 (〇〇) となる。				
平成〇年	〇月	博士 (〇〇) 又は〇〇博士 (〇〇大学 第〇〇号)				
平成〇年	〇月	〇〇免許 (第〇〇号) や日本〇〇科学会〇〇認定医 (第〇〇号) など				
職 歴						
在 職 期 間			勤 務 先		職名 (職務内容, 雇用形態)	
平成〇年	〇月	～	平成〇年	〇月	在家庭	—
平成〇年	〇月	～	平成〇年	〇月	〇〇大学〇〇部〇〇コース	助教 (教育研究, 正職員)
平成〇年	〇月	～	平成〇年	〇月	米国〇〇大学〇〇センター	〇〇研究員 (研究, 有期職員)
平成〇年	〇月	～	平成〇年	〇月	〇〇大学〇〇部〇〇学講座	准教授 (教育研究, 正職員)
年	月	～	年	月	※全ての職歴について記入する。 ※行が不足する場合は適宜追加してください。	
賞 罰・処 分 歴 等						
時 期		内 容				
平成〇年	〇月	日本〇〇学会 〇〇賞 受賞				
年	月	※公的機関, 学会, 出版社等からの表彰, 職務上の表彰, 懲戒処分等 (セクハラ, 研究費不正等) を記入				
年	月					

本書類の記載内容については事実に相違なく、虚偽の記載があった場合には、採用取消や懲戒処分等の対象となり得ることについて了承します。

令和 年 月 日

氏 名

印

### 【記入上の注意】

- 年齢は、任用予定年月日で記載してください。
- 写真欄は、大分大学教員の場合は不要です。
- 学歴の欄は、高校卒業以後のすべての学歴について記載してください。
- 職歴の欄は、最終学校卒業等の月の翌月から、空白期間がないように記入してください。なお、在宅期間については、勤務先の欄に「在家庭」と記入してください。
- 賞罰・処分歴等欄には、公的機関, 学会, 出版社等からの表彰又は職務上の表彰や懲戒処分 (研究費の不正受給に係る処分等) を記載してください。また、過去に学生に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分若しくは分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入してください。なお、該当する事項がない場合は、時期欄は無記入にし、内容欄に「なし」と記載してください。

氏 名 大 学 太 郎

学会及び社会における活動等 (所属学会 ; 役職等)	
年 月	事 項
平成〇〇年 〇月	日本△△科学会 会員
平成〇〇年 〇月	◎◎◎◎科学会 評議員

業績目録 学位論文,原著,症例報告,総説,著書等,主要学会での発表の別に,  
それぞれまとめ,印刷してください。

氏名 大学太郎

類別	番号	著者名(発表者名)全員の氏名を記載順に記入してください。 学位論文(題目・誌名・巻・初頁～終頁・年・インパクトファクター),原著(題目・誌名・巻・初頁～終頁・年・インパクトファクター・査続の有無),症例報告(題目・誌名・巻・初頁～終頁・年・インパクトファクター・査続の有無),総説(題目・誌名・巻・初頁～終頁・年・インパクトファクター・査続の有無),著書等(分担項目名・書名・初頁～終頁・発行所・年・査続の有無),主要学会での発表(題目・会名・年;シンポジウム・特別講演等の別)
学位論文	〇	*大学太郎, 〇〇〇〇における△△△△の形態計測的研究 —××××学的所見との関係— 臨床神経 20:31-39, 1982
原著	1	*大学太郎, 〇〇〇と△△△△との関連. 九州神経精神医学 7:263-266, 1992 査続:有無
	2	*Daigaku T., Oita J., Monka S. Stemlin he·····of ···· DNA in he····· carcinoma. Am. J. Surg. Pathol. 10:789-794, 1994. (IF:〇〇) 査続:有無
	③	#Oita J., #Daigaku T., Monka S. Human uuu··· imm···RNA·····factor··· cancer cells. J. Cancer 19:452-458, 1995. (# equal contribution) (IF:〇〇) 査続:有無
	④	Oita J., Monka S., *Daigaku T. Abnormal hu····· imm····· to mu·····Stimu··· in ···· with lung cancer. Cancer 69:2252-2257, 1996. (IF:〇〇) 査続:有無
	⑤	*大学太郎, 〇〇〇〇からみた薬剤の△△と××法:髄膜炎(〇〇性・△△性・×××性). 医学と薬学 22:801-809, 2001. 査続:有無
症例報告	1	*大分二郎, 大学太郎, 文科省一. 〇〇〇〇を認めた△△△△硬化症の2例. 神経内科 31:104-108, 1993. 査続:有無
総説	1	Oita J., Daigaku T. 〇〇性△△炎. ×××科ハンドブック(山田◇◇編), 150-250, 南江堂, 東京, 1992. 査続:有無
	②	*大学太郎, 大分二郎. Port····· sh·····. Pit·· and Comp··· in the Dia·· Disease (ed. by N.J.Ly····· and M.Ma·····), 475-484, Georg Thieme Verlag, N Y, 1993. 査続:有無
著書等	1	Daigaku T., Monka S. Mucosal····· against bacterial ······ in the nose. VIV World Congress of ·····y Head and Neck Surgery, Round Table, 1989, Madrid, Spain. 査続:有無
学会発表	1	大学太郎, 山田花子, 文科省一 〇〇〇〇領域レーザーサーミア臨床の△△△△に関する研究. 第×回レーザーサーミアシンポジウム 1995.8. 犬山市.
	2	大学太郎, 〇〇〇〇における△△△△と××××の変動について. 第〇〇回臨床△△学会総会 1998.10. 千葉市.
その他	1	一般演題 上記ほか〇〇回  大分二郎, 大学太郎, 文科省一. 〇〇〇〇を行う△△△△システムの検討. 神経内科 31:104-108, 1993.
		(全ての業績) 原 著 77編(和文50編, 内ファーストオーサー17編) (欧文27編, インパクトファクター計〇〇点) (内ファーストオーサー 8編, インパクトファクター計〇〇点) (内収録・デ・イング・オーサー2編, インパクトファクター計〇〇点)
		症例報告 10編(和文 5編, 内ファーストオーサー 2編) (欧文 5編, インパクトファクター計〇〇点) (内ファーストオーサー 1編, インパクトファクター計〇〇点) (内収録・デ・イング・オーサー0編, インパクトファクター計〇〇点)
		総 説 25編(和文15編, 内ファーストオーサー 7編) (欧文10編, インパクトファクター計〇〇点) (内ファーストオーサー 8編, インパクトファクター計〇〇点) (内収録・デ・イング・オーサー1編, インパクトファクター計〇〇点)

著書等 30編 (和文20編, 内ファーストオーサー15編)  
(欧文10編, 内ファーストオーサー5編)

その他 2編 (和文2編, 内ファーストオーサー1編)  
(欧文0編, 内ファーストオーサー0編)

シンポジウム, 特別講演等 25回 (内トップネーム 20回)  
一般演題 国際学会 30回 (内トップネーム 25回)  
国内学会 50回 (内トップネーム 39回)  
地方学会 15回 (内トップネーム 12回)